

食の6次産業化プロデューサー育成に取り組む教育機関⑤

S P H指定の農業高校と中小企業診断士協会が手を組み食Pro.人材を育成

福岡県立 福岡農業高等学校 / 一般社団法人 福岡県中小企業診断士協会

1 福岡県での育成プログラム実施状況

(1) 重層的な食Pro.育成体制が整う福岡県

福岡県では、一般社団法人日本販路コーディネータ協会、九州大学大学院生物資源環境科学府・農学部、一般社団法人福岡県中小企業診断士協会（以下「福岡県中小企業診断士協会」）、福岡県立福岡農業高等学校（以下「福岡農業高校」）の4機関で「食の6次産業化プロデューサー（以下「食Pro.」）」育成プログラムを実施している。福岡県は、高校生・大学生・社会人を対象とした育成プログラムが網羅されている唯一の都道府県ということになる。

福岡県内のレベル認定者の数は30名（内訳はレベル4：1名、レベル3：7名、レベル2：2名、レベル1：20名）になり、九州大学や福岡農業高校から多くの修了生が輩出され、食Pro.の段位認定を取り始めると認定者数でも全国トップになるポテンシャルを秘めている。（いずれも平成26年12月時点）

(2) 福岡農業高校での食Pro.育成プログラム

福岡県内で食Pro.育成プログラムを実施している4機関のうち、福岡農業高校では、平成26年9月13日（土）・14日（日）の2日間にわたり、都市園芸科の3年生12名と専攻科（※）生物生産科の6名を対象に、食Pro.育成プログラム（レベル1）を初めて実施した。この18名は無事修了し、12月に食Pro.レベル1の段位認定を取得した。

この福岡農業高校の育成プログラムには注目すべき点がある。それは、プログラムの講師を務めたのが高校の教諭ではなく、県内で育成プログラムを実施している福岡県中小企業診断士協会の講師陣だということだ。普段は社会人に対して、レベル3までの育成プログラムで講師を務めているが、福岡農業高校からの要請により高校生向けのレベル1のプログラムで出張講師を務めた。その理由としては、「6次産業化論」や「経営及び経営分析の基礎」といった科目について、農業高校のカリキュラムには含まれておらず、平成26年度については、すでにノウハウをもっている福岡県中小企業診断士協会と連携する形をとったということだ。このように高校と民間の団体が連携して食Pro.育成プログラムを行っているのはめずらしいケースである。



福岡県中小企業診断士協会の講師による高校生への講義（福岡農業高校）



ジャム作りで指導を受ける高校生（福岡農業高校）

福島県で福島大学地域ブランド戦略研究所が、平成26年に夏休みを利用して県内の農業高校の生徒たちを集めて食Pro.育成プログラムを実施したことはあったが、このケースにおける主体はあくまで福島大学地域ブランド戦略研究所であった。福岡農業高校と福岡県中小企業診断士協会のケースは、両者がそれぞれプログラム認証を取得し、双方のノウハウを活用しながら連携を図っているというものである。

次章以降で、福岡県中小企業診断士協会および福岡農業高校のそれぞれの概要や食Pro.育成プログラム実施の状況、そして両者の連携の経緯や今後の展開について紹介する。

※福岡農業高校の「専攻科」は日本で唯一、短期大学設置基準に準じたカリキュラムを実施する農業専攻科。

2 福岡県中小企業診断士協会について

(1) 協会の概要

福岡県中小企業診断士協会は、元は東京都にある社団法人中小企業診断協会の福岡県支部として、設立以来50年以上にわたり福岡県内の中小企業の発展に貢献してきた。その後、公益法人制度の改正にともない、平成24年4月に法人化し、一般社団法人福岡県中小企業診断士協会となった。会員はすべて中小企業診断士であり、その数は250名を超えている。

事業内容としては、国や自治体、商工会等といった中小企業の支援機関に対して、経営相談員の派遣、セミナー講師の派遣、支援施策の提案、調査研究事業を行っているとともに、一般企業に対して経営相談事業、セミナー事業、中小企業診断士の紹介を行っている。

(2) 農商工連携から6次産業化サポートセンターへ

福岡県内の中小企業の発展に貢献するための事業を行う中で、福岡県中小企業診断士協会として農業者への経営指導を行う機会もあったが、組織として農業支援の分野に注力しはじめたのは平成21年、22年に取り組んだ農商工連携等人材育成事業がきっかけとなっている。本事業は、平成20年5月に成立した「農商工等連携促進法」の施行に伴い全国各地で様々な機関により行われていた人材育成事業で、戦略的に農商工連携を展開する核となる人材を育成・確保することを目的としたものである。

この人材育成事業を2年間続けることで、農業分野支援に関わる人材やノウハウの蓄積を図ることができ、平成23年度の6次産業化サポートセンター業務の受託へと繋がっていった。福岡県の6次産業化サポートセンターは平成23年度から毎年受託しており、平成26年度は福岡県中小企業振興センターとの連携体として、「ふくおか6次産業化・農商工連携サポートセンター」という名称で引き続き受託している。6次産業化サポートセンターの役割としては、県内の農林漁業者等の6次産業化を推進する支援機関として、6次産業化の専門家（6次産業化プランナー等）による、個別相談や課題解決に向けた実践研修会、異業種等との交流会等を開催するなど、農林漁業者等の6次産業化の取組みを支援することである。

この「ふくおか6次産業化・農商工連携サポートセンター」において事務局責任者を担っているのが、福岡県中小企業診断士協会の常任理事でもある内場幸広氏である。内場氏は銀行出身の中小企業診断士で、福岡県中小



ワークショップ後の発表風景（福岡県中小企業診断士協会）

企業診断士協会主催の農商工連携等人材育成事業の講座を受講した後に、翌年度は講師を務め、現在では6次産業化サポートセンターの責任者となっている。福岡県で登録している6次産業化プランナーは約40名で、年間およそ350件程度の問い合わせに対応し、総合化事業計画の認定件数は累計59件（平成26年12月現在）という実績を残している。その事務局機能を一身に担っているのが内場氏である。

(3) 食Pro.育成プログラムに取り組む経緯

～6次産業化サポートセンターとの相乗効果

平成25年11月に福岡で開催した食Pro.の制度説明会に内場氏は参加していた。その説明会において、食Pro.制度の内容を把握し、これまでの福岡県中小企業診断士協会の実績や経験を踏まえれば、食Pro.育成プログラムは問題なく実施できると確信したそうだ。そして食Pro.の認定・認証は”国のお墨付き”がつくという点にも魅力を感じたということだ。その後、早速福岡県中小企業診断士協会の常任理事会、理事会に諮り、スムーズに組織内の合意が得られ、平成26年2月に認証を得るに至った。

平成26年度は3回講座を開催し、九州各県から集まった総勢21名の修了者を輩出する予定である。受講生を集めるための告知については、ホームページを活用したり会員となっている中小企業診断士に案内するほか、6次産業化サポートセンターを同時に担っている強みを活かし、農林漁業者等が集まる研修会や交流会でも食Pro.のPRや講座の告知を行うことで、6次産業化案件の発掘とともに受講者の確保を図ることができるという相乗効果を生んでいる。また、県内の農業高校や食品系、栄養系の短大にも営業活動を行っている。

内場氏によれば、福岡県中小企業診断士協会の食Pro.育成プログラムは、経営支援の専門家による経営に関する講義内容の充実が強みであるとのことだ。

3 福岡県立福岡農業高等学校について

(1) 福岡農業高校の概要

一方の福岡県立福岡農業高等学校（太宰府市）は、130年以上の歴史がある伝統校で、敷地面積は44万㎡と西日本最大規模の高校である。学科は都市園芸科・環境活用科・食品科学科・生活デザイン科の4科で構成され、平成26年5月現在の生徒数は447名の農業高校である。この他、前述の専攻科には生物生産科と食品工学科があり、毎年1割程度の生徒が進学している。

地域に根ざした信頼される学校として、校内の施設や農場を開放して農産物販売会や地域の方への農業体験実習指導、ミカンの収穫体験などを行っている。

(2) S P H指定における食Pro.の位置づけ

この福岡農業高校が、平成26年度から実施されている文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（以下「S P H」）に指定された。S P Hとは、専門高校において、大学・研究機関・企業等との連携の強化等により、社会の変化や産業の動向等に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、先進的な卓越した取組を行う専門高校を指定して研究開発を行う事業である。（文部科学省ホームページより引用）

全国で10校が指定され、農業では2校（もう1校は宮城県農業高等学校）のみである。研究開発課題として掲げているのは、「都市園芸に関する専門的な技術及び技能と経営感覚を身につけたアグリスペシャリストの育成」ということで、本科と専攻科の5年間の教育活動の中で、都市部における農業高校の在り方を踏まえて都市型農業を担う人材（アグリスペシャリスト）を育成するとともに、地域産業に貢献できる優れた担い手を育成することが目的である。この課題に沿った教育プログラムとして、(1)栽培に関する先端技術を活用する能力を身につけるフロンティア学習、(2)都市型農業を経営する能力を身につけるマネジメント学習、(3)農業及び農業関連産業で必要な技術を身につけるスキルアップ学習、(4)産業現場に必要な資格の取得のための学習という4点を設定しており、食Pro.は(3)スキルアップ学習、(4)実用的資格取得に位置付けられている。

そもそも食Pro.を知ったきっかけを農場長の堀利治先生に聞いたところ、生徒にしっかりと資格を取らせたいと考えて探していた際に、当時の就職指導員から食Pro.を紹介されたとのこと。国家認定制度でもあり、6

次産業化に対応する人材を育成するという趣旨も学校が目指す方向性と一致していたため、S P Hの研究内容に盛り込むことを決定した。

4 今後のより高度な連携構築に向けて

福岡県中小企業診断士協会の内場氏は、九州域内での食Pro.の裾野拡大のために、県内の農業高校に制度の紹介をして回っていた。福岡農業高校の堀先生は、S P Hとして食Pro.導入を決めていたが、カリキュラムの組み方や内容などまだまだイメージが掴めないうえに、そこで双方の思惑が一致し、福岡農業高校の食Pro.育成プログラムに、すでに取り組んでいた福岡県中小企業診断士協会のノウハウを取り入れることでスピーディーに特別講義を実施することができた。こうして行われたのが冒頭に紹介した平成26年9月の特別講義である。レベル1



福岡県中小企業診断士協会 常任理事 内場幸広氏(左)と
福岡農業高等学校 農場長 堀利治氏(右)



福岡農業高等学校の校訓「土を耕し 心を耕し 未来を耕す」

の内容とはいえ、普段は社会人に対しての講義しか行っていない講師陣は高校生に対してどこまで噛み砕いて講義を行うべきか事前に勉強会を行ったというが、簿記の考え方を教えるところなど、まだ高校生にとっては理解が難しかったようで今後の課題となっている。

福岡農業高校では、SPHの計画の中に平成28年度はレベル2への取組み、そして学校設定科目として「食農マネジメントⅠ・Ⅱ」を設定し、平成29年度には専攻科を含めた5年教育の中でレベル3へ取り組むことを描いている。そしてSPHの最終年度である平成30年度にはレベル4相当のスキル習得まで目指している。そのためにも将来的には外部講師に頼るばかりではなく、学校内で育成プログラムを回し、生徒に対してきめ細かく指導できるような体制を築く必要がある。そういった意味では、今後福岡県中小企業診断士協会とは講師の依頼だけではなく、より高度な連携が必要になってくる。例えば、福岡県中小企業診断士協会と関係の深い地元の食品関連企業を巻き込み、高校生と一緒に商品開発プロジェクトを進めたり、校内の農産物販売会で中小企業診断士と一緒にマーケティング戦略を組み立てたりすることによって、高校生に実践的スキルを身につけてもらうことが考えられる。

このような育成プログラムを組み立て、座学で学んだ知識面に加えて、商品・サービスの開発や多角化、販路開拓やプロモーション、異業種との連携や地域活性化へ

の貢献等のレベル4に求められる実践的スキルを身につけることができれば、高校生・専攻科生が5年間かけてレベル4相当の知識とスキルを習得することも決して不可能ではない。福岡農業高校の今後の動きに注目である。

この福岡県の事例のように、今後食Pro.を媒体として、このような地域内におけるタテ・ヨコ・ナナメの新しい連携が日本各地に生まれてくることによって、食農分野におけるプロデューサー人材を輩出する新たなルートが創られ、それが結果として地域活性化に繋がっていくことも期待される。



一般社団法人 福岡県中小企業診断士協会
 〒812-0046 福岡県福岡市博多区吉塚本町9-15
 (財) 福岡県中小企業振興センター10階
<http://shindan-fukuoka.com/>

福岡県立 福岡農業高等学校
 〒818-0134 福岡県太宰府市大佐野250
<http://fukuoka-agr.fku.ed.jp/>

平成26年12月

執筆：一般社団法人食農共創プロデューサーズ 植松 謙

